

利用学習計画書

仙台市立古城小学校
担任 第6学年 市川 孝仁

1 ねらい

縄文の森広場での展示見学学習や体験学習、また土器の野焼き体験を通して、縄文時代の人々の暮らし（衣・食・住）を理解し、体験的に縄文人の道具作りの知恵などにふれる。

2 評価

探検シートを使い、縄文時代の人々の暮らし（衣・食・住）について理解し、体験学習を通して、縄文人の生活上の苦労や工夫を実感することができる。

3 学習活動について

本利用学習は、6学年の社会科及び図画工作科の導入として次のように位置付けている。社会科に関しては、「縄文のむらから古墳のくにへ」の単元において、縄文時代の人々の生活への理解を深めることが目的である。私たちが生活している身近な地域にも、縄文人のむらが確かに実在したことを実感したり、実際に縄文土器づくりを通して、縄文時代の暮らしを体験したりできることは、本利用学習最大の利点である。

また、図画工作科の造形分野の学習として、実際に粘土から土器の形づくり、乾燥、焼き上げの作業を行えるのも、利点の一つである。

このように、本利用学習では横断的に教科の内容を関連させ、次のような力を子供に身に付けさせたい。一つは、歴史事象（縄文時代）への実感的理解と関心を深めさせること。もう一つは、土器づくり（造形活動）への関心をもたせ、実際に土器づくりを楽しんだり、難しさを味わったりさせることである。

4 事前指導

- ・「縄文のむらから古墳のくにへ」の学習を通して、縄文時代の人々の暮らしを調べ、理解する。
- ・縄文土器づくりを行い、焼き上げの前段階まで作業を進めておく。
- ・校外学習当日の活動の流れや約束等の指導

5 当日の指導（活動）内容

（1）見学学習

復元住居・遺構表示等の野外展示及び館内の展示見学を予定
（探検シート活用）

(2) 体験学習

- ・勾玉（約90分：200円） ・土器の野焼き
（雨天・強風時）
- ・石アクセサリー※（約60分：100円）
※石アクセサリー用の素材で勾玉づくり
- ・石器（約90分：100円）もしくは編布（約90分：100円）を児童が
選択（約半数ずつ）

6 当日の交通手段 市営バス

7 事後指導

- ・探検シートの確認
- ・展示見学学習や体験学習の感想記入
- ・土器の展示と感想の記入・交流

平成25年6月25日

利用学習報告書

仙台市立古城小学校
担当 第6学年 市川 孝仁

1 事後指導について

(1) 実施日

平成25年5月22日(水)～6月6日(水) (3時間扱い)

(2) 主な内容

- ・社会科の授業で学習ノートの答え合わせを行い、学習してきた内容を確認する。
- ・体験や見学を通して分かったこと、考えたことを新聞にまとめる。
※新聞のまとめ方、記事内容の視点(社会科の授業)
新聞作り(家庭学習等)

2 送付する資料

児童の作成資料 壁新聞(4点)

縄文新聞

じゅんぶん しんぶん

縄文の心魂を伝える
縄文の文化を伝える
縄文の歴史を伝える
縄文の未来を伝える

縄文の未来について

おはようございます

今日は、縄文の未来について

お話ししたいと思います

縄文の未来は、

私たちの未来です

縄文の文化を

継承し、

発展させたい

と思います

縄文の未来は

私たちの未来

です

縄文の未来は

私たちの未来

です



縄文の未来は、
私たちの未来です。
縄文の文化を
継承し、
発展させたい
と思います。



縄文の未来について

縄文の未来は、
私たちの未来です。
縄文の文化を
継承し、
発展させたい
と思います。

縄文時代の生活



野焼き体験

編集後記

縄文の虫棘新聞

第1号

縄文時代の生活の様子を、
土器や石器の出土品から
読みとります。



縄文時代の生活の様子を、
土器や石器の出土品から
読みとります。



縄文の食生活

縄文時代の食生活は、
狩猟と採集が中心で、
魚や鳥獣、植物などを
食べていました。



縄文時代の食生活は、
狩猟と採集が中心で、
魚や鳥獣、植物などを
食べていました。

縄文の生活

縄文時代の生活は、
自然環境に適応して、
狩猟と採集を主な
生活手段としていました。

縄文時代の生活は、
自然環境に適応して、
狩猟と採集を主な
生活手段としていました。

縄文時代の生活は、
自然環境に適応して、
狩猟と採集を主な
生活手段としていました。